

ついにオープン

羽田空港「第2旅客ターミナル」

年間6000万人を超えるお客様にご利用いただいている首都圏の空の玄関、羽田空港に2004年12月1日「第2旅客ターミナル」が、ついにオープンしました。また、現在の第1旅客ターミナルも今月の21日リニューアルし、さらに便利で快適な空港に生まれ変わります。

具体的にどう変わるの？

既設の第1旅客ターミナルを、日本航空(JAL)グループ・スカイマークエアラインズ・スカイネットアジア航空の3社が使用し、新設の第2旅客ターミナルを、全日空(ANA)・エアドゥの2社が使用します。

第2旅客ターミナルは、日本空港ビルデングが総事業費670億円をかけて建設しました。地上5階、地下1階で、ターミナルから直接搭乗できるスポットは15カ所あります。これまで4割の利用者が駐機場場にバスで向かっていたのが、ほとんどの便で直接搭乗できます。動く歩道は、車イスも楽に乗れる幅140センチにするなど、バリアフリーも多く取り入れております。

第2旅客ターミナルの効果

既設の第1ターミナルビル内の混雑が解消され、ターミナルビルから直接航空機に搭乗できる便数が大幅に増加します。増加率は、現在の6割から9割へと大幅にアップし、現在空港内でのバス輸送を余儀なくされている乗客の大幅な減少を計っています。

首都高速道路(湾岸線)へ直接接続するランプの整備及び環状8号線への連絡道路の整備により空港アクセスが向上し、既存の第1旅客ターミナルと合わせた広さは約47万平方メートルで、国内最大級。旅客機の駐機スポットや「動く歩道」を増やし、利便性がアップします。

知っていますか？「神奈川口構想」

羽田空港の再拡張事業に関連して、昨年 12 月に神奈川県・横浜市・川崎市・東京都の 4 自治体と国土交通省との間で、建設にかかる総費用約 9 千億円の内、都が 1 千億、県と両市がそれぞれ 100 億円ずつ分担し、国に無利子貸し付けの形で資金協力することが決まりました。

その必要性

現在国は、2009 年度を完成目標として、羽田空港の再拡張・国際化事業を進めています。発着便が大幅に増加し、国際定期便が就航することにより、県民の皆様の利便性が高まるばかりでなく、経済的効果も大いに期待されます。

多摩川を渡る連絡路（道路）を整備するとともに、空港対岸の地域（神奈川口）に空港関連施設や臨海産業を集積させるなど、羽田空港の再拡張国際化の効果を神奈川側に最大限発揮させ、京浜臨海部の再生をはじめ、神奈川の活性化に結びつけようとするものです。

その効果

空港機能と連結した新たな立地機能の集積に大きな役割を果たします。

羽田空港への時間近接性が実現されることにより、東京側と同等のポテンシャルを有することとなり、その結果、京浜臨海部へ国際的な臨空産業が集積し、雇用創出効果が大きくなり、検討が進められている川崎アプローチ線との連絡により川崎駅等からのアクセスが可能になります。

塩浜駅（新駅）からのアクセスの向上を高め、県内・東京・千葉方面からの空港アクセス需要が高まります。

その課題

国道認定の可能性、地方公共団体の負担が大きい、事業採算性

神奈川口を含む塩浜地区のまちづくりと塩浜駅整備の整合性、駅整備等の整備主体や事業手法等の検討が必要、JR 東日本（線路施設保有）JR 貨物（貨物列車運行）との調整とまだまだ問題は多いが、これをいかにクリアするのが今後の焦点になりそうです。

おこのぎ八郎さんを支援する会

横浜市反町 1 - 7 - 1

TEL: 0 4 5 (3 2 3) 6 0 0 0 FAX: 0 4 5 (3 2 3) 2 9 7 4

E-mail: g 0 0 8 3 3 @shugjiin.go.jp

<http://www.hachirou.com>